

# 水稻の生育状況と今後の管理対策（第3号）

平成30年6月21日  
新潟県農林水産部

## 〔要約〕

### コシヒカリ

- ◎ コシヒカリは、指標値（生育のめやす）に比べて葉数の進み及び茎数は、「並」の状況です。
- ◎ 今後、気温が平年並か高く推移する見込みです。旺盛な分けつの発生が心配されますので、中干し（なかぼし）<sup>\*1</sup>を徹底しましょう。
- ◎ 生育量が大きくなっている場合は、田面に小ひびが入る程度よりも中干しをやや強めに実施しましょう。
- ◎ 中山間地などの田植えが遅い場合は、直ちに茎数を確認し、中干しを開始しましょう。

### つきあかり・ゆきん子舞・こしいぶき

- ◎ 穂肥（ほごえ）<sup>\*2</sup>の適期施用が収量を確保するポイントです。幼穂（ようすい）<sup>\*3</sup>の確認を早めに行い、1回目の穂肥の時期を見逃さないようにしましょう。

<sup>\*1</sup> 中干し：田の水を落として、一時的に田を乾かすこと。

<sup>\*2</sup> 穂肥：穂が出る前に追肥すること。 <sup>\*3</sup> 幼穂：穂が出る前の生長途中の穂。

### 〔6月20日現在の生育〕

- コシヒカリは、指標値（生育のめやす）に比べ、草丈、茎数、葉数の進み、葉色いずれも「並」の状況です。
- 長岡市に設置した調査ほ場では、つきあかり、ゆきん子舞、こしいぶきの茎数は、指標値に比べ、それぞれ「少」、「並」、「並」の状況です。

### 〔今後の生育見込み〕

- 6月14日発表の1か月予報（6月16日から7月15日まで）によると、気温は平年並か高い見込みです。また、降水量及び日照時間はほぼ平年並みの見込みです。
- そのため、茎数が急増し草丈が伸びる可能性があります。

### 〔当面の管理対策〕

- コシヒカリは、茎数過剰や今後の倒伏を防止するため、中干し・溝切りを徹底しましょう。
- 中山間地などの田植えが遅い場合は、ワキの発生が見られます。直ちに茎数を確認して、やや早めであっても中干しを開始しましょう。
- 中干しは、田面に小さなひびが入り、軽く足跡がつく程度とします。茎数が多く葉色も濃いコシヒカリは中干しをやや強めに行い、茎数の増加を抑えましょう。ただし、乾かしすぎて大きなひびが入ると根を傷めますので、田面の状態に注意しましょう。
- 中干しは、遅くとも出穂の1か月前をめどに終了します。中干し終了後は、浅水の間断かん水を実施し、徐々に飽水管理に移行しましょう。
- つきあかり、ゆきん子舞の多収栽培では、籾数を確保するため、1回目の穂肥を幼穂形成期（出穂期25日前頃）に施用します。幼穂の確認を早めに行い、遅れずに施用しましょう。穂肥施用の時期・量は、地域ごとの技術対策を参考にしてください。
- 農作業時は水分をこまめに補給するなどして、熱中症事故を防止しましょう。

### ◎ 今後の管理対策発行予定日

6月29日、7月11日・20日・26日・31日、8月21日、9月12日

## 〔補足資料〕

### 1 農業普及指導センター及び作物研究センターにおける生育状況

- コシヒカリは、指標値（生育のめやす）に比べ、草丈、茎数、葉数、葉色とも「並」の状況です（表1）。
- こしいぶき、ゆきん子舞は茎数が「並」、つきあかりは「少ない」状況です（表2、表3、表4）。

#### (1) コシヒカリ

表1 県内全域のコシヒカリ生育調査ほ調査結果（6月20日現在）

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	37 cm	38 cm	並	98%
茎数	383 本/m <sup>2</sup>	377 本/m <sup>2</sup>	並	102%
葉数	8.4 葉	8.5 葉	並	-0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	39.2	38.8	並	+0.4

注) 県内全域の生育調査ほデータの平均値

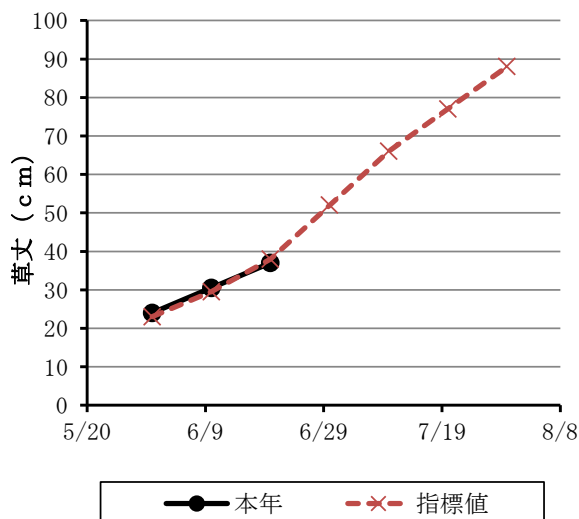


図1 コシヒカリの草丈の推移  
(県全体)

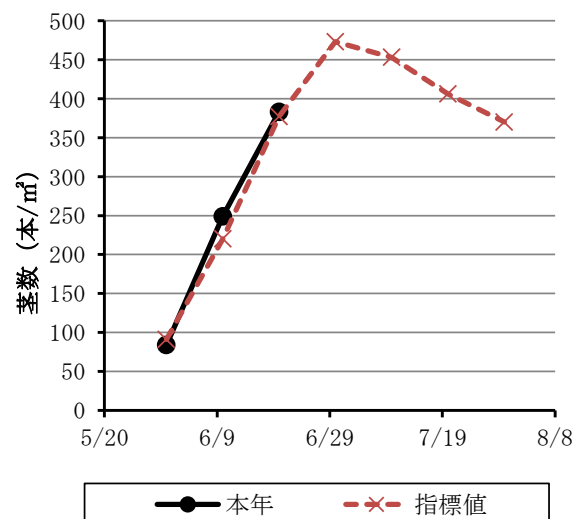


図2 コシヒカリの茎数の推移  
(県全体)

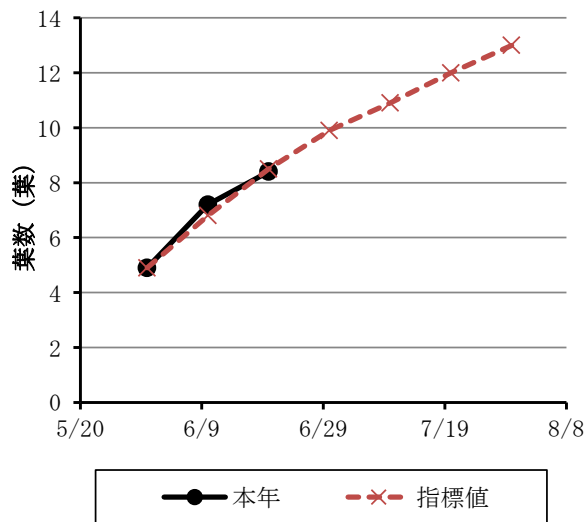


図3 コシヒカリの葉数の推移  
(県全体)

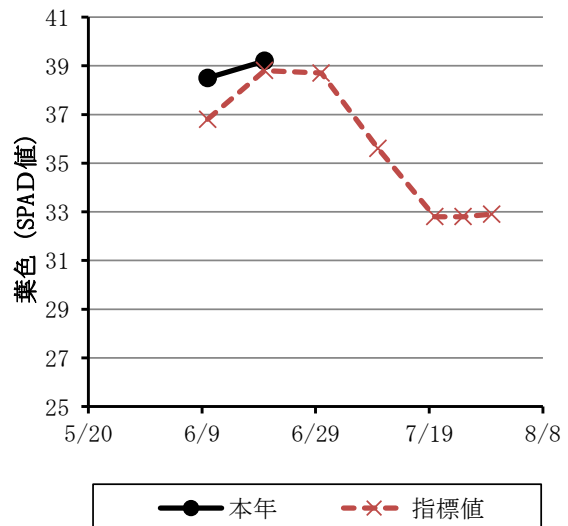


図4 コシヒカリの葉色の推移  
(県全体)

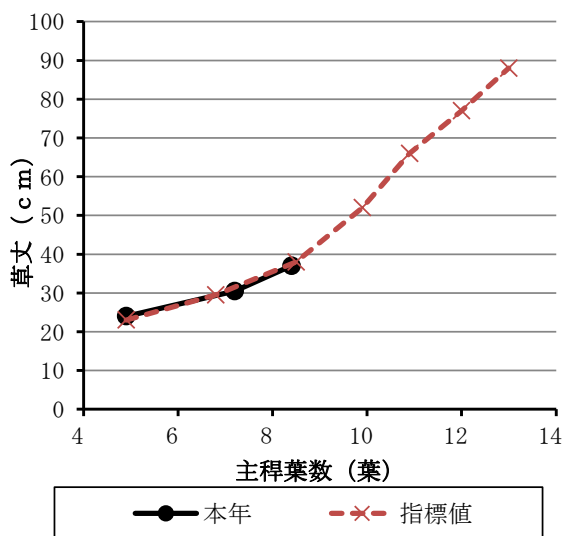


図5 コシヒカリの葉数と草丈  
(県全体)

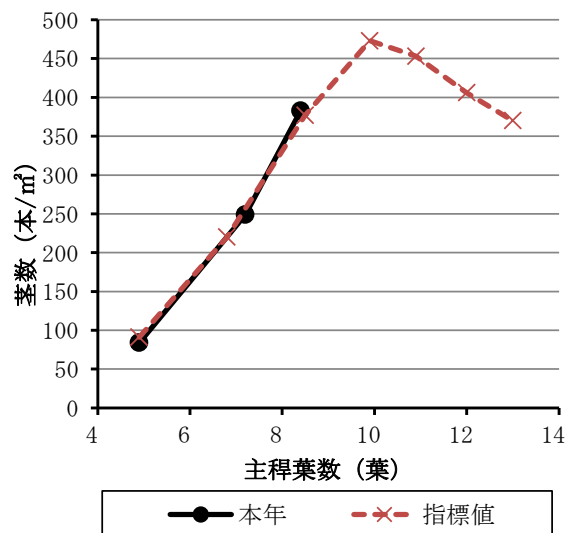


図6 コシヒカリの葉数と茎数  
(県全体)

(2) こしいぶき、つきあかり、ゆきん子舞

表2 こしいぶきの生育(調査日:6月20日)

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	34 cm	36 cm	やや短	95%
茎数	527 本/m <sup>2</sup>	516 本/m <sup>2</sup>	並	102%
葉数	8.8 葉	9.0 葉	並	-0.3 葉
葉色 (SPAD 値)	38.9	40.8	やや淡い	-1.9

注1) 化成肥料栽培。田植え5月11日、栽植密度は19.6株/m<sup>2</sup>

注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ

表3 つきあかりの生育(調査日:6月20日)

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	46 cm	42 cm	やや長	109%
茎数	380 本/m <sup>2</sup>	420 本/m <sup>2</sup>	少	90%
葉数	8.8 葉	8.8 葉	並	±0.0 葉
葉色 (SPAD 値)	42.3	44.0	やや淡い	-1.7

注1) 化成肥料栽培。田植え5月8日、栽植密度は21.2株/m<sup>2</sup>

注2) 基肥窒素成分量 7.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ

表4 ゆきん子舞の生育調査ほ調査結果(6月20日現在)

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	44 cm	45 cm	並	98%
茎数	563 本/m <sup>2</sup>	580 本/m <sup>2</sup>	並	97%
葉数	9.3 葉	9.0 葉	並	+0.3 葉
葉色 (SPAD 値)	38.1	39.5	やや淡い	-1.4

注1) 化成肥料栽培。田植え5月1日、栽植密度は18.6株/m<sup>2</sup>

注2) 基肥窒素成分量 1.68kg/10a(前作枝豆)

注3) 長岡市高野町の生育調査ほデータ

## 2 地力窒素の発現状況

○ 6月11日～19日の日平均地温は平年より約1.9℃低く、この期間の窒素発現量は化学肥料区、堆肥区とも平年より少ない。移植からの窒素発現量は両区ともこれまで窒素発現量が多かったことから平年よりやや多く推移している（表5）。

表5 地力窒素の発現状況（農総研基盤研究部調査） (mgN/100g)

調査日		5月10日 (初期値)	6月10日①	6月19日②	地力窒素発現量※ <sup>1</sup> (③=②-①)
化学肥料区	本年	3.3	4.9	5.1	0.2
	前年	3.1	4.8	4.9	0.1
	平年	2.3	3.3	3.8	0.5
堆肥施用区	本年	3.2	5.2	5.4	0.2
	前年	3.5	5.6	5.9	0.3
	平年	2.7	4.1	4.7	0.6

※1 小数点2ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

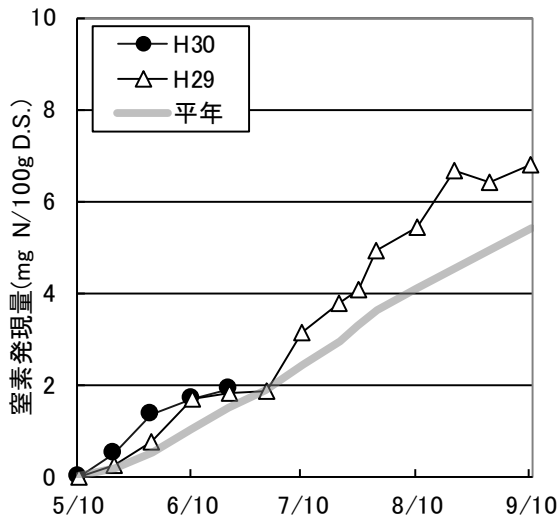


図7 地力窒素の発現推移  
(化学区；初期値を0とした)

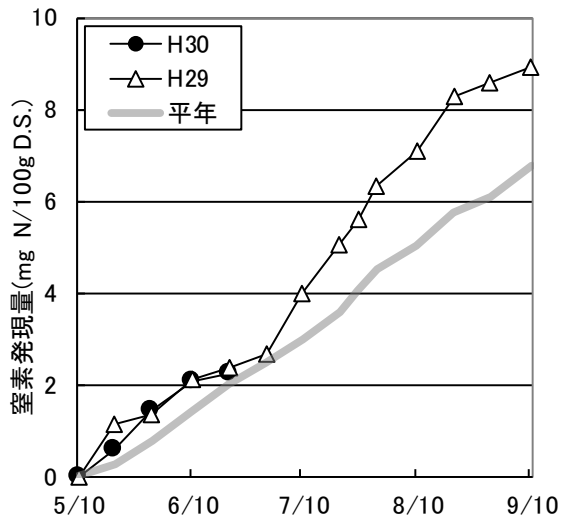


図8 地力窒素の発現推移  
(堆肥区；初期値を0とした)

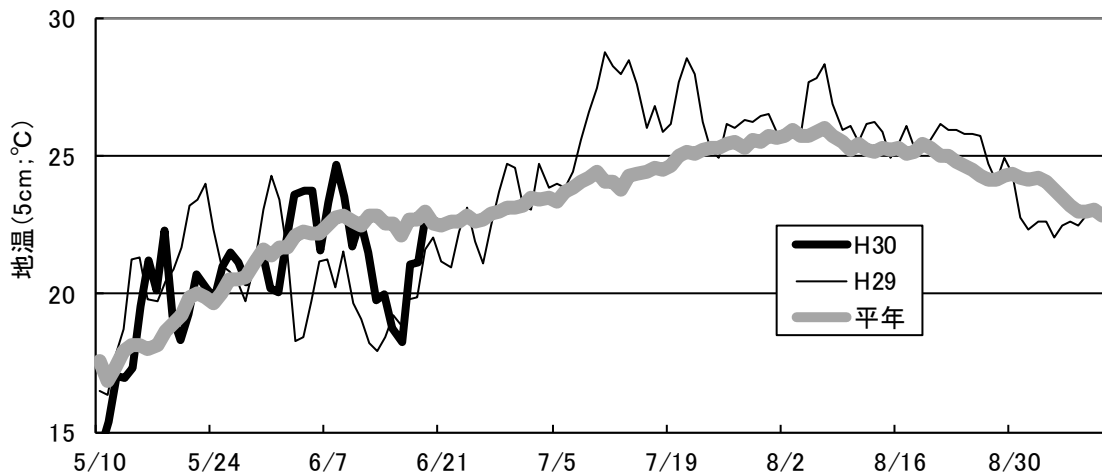


図9 地温 (5cm) の推移